

「ハンギョレ」紙の日本共産党特集記事

韓国の日刊紙「ハンギョレ」が5月15日付で、創刊21周年特集記事の一つとして、日本共産党特集を掲載しました。全文は次の通りです。

日本版 88 万ウォン世代・非正規職 彼らが共産党員になった理由
製造業まで派遣職許容‘終身職場失踪’
年俸 2 百万円以下‘ワーキング・プア’ 1 千万人
共産党、草の根組織再編・街頭労働相談

進歩の道探し／日本共産党の復活

元自衛隊員のサガワマコト（60、仮名）は昨年10月、日本共産党に入党した。父の影響で選挙のたびに政権党の自民党に投票していた彼が、自民党と正反対にある政党に入党したのは、失業がきっかけだった。

1969 年から 1980 年まで 11 年間、自衛隊で働いた彼は昨年、厨房・家具リサイクル業で 2 カ月間、パートタイムで清掃をしていたが解雇された。自衛隊退職後、印刷業界で長いあいだ働き、各種の非正規職を転々とした彼が失業後、手元に残ったのは 3 万円だけだった。

1 日の生活費を 500 円に抑え、毎日自転車に乗って職場を探したが、60 歳の彼がパートタイムの職を得るのは容易ではなかった。そのとき、日本共産党機関紙「赤旗」を購読している隣人が、共産党に一度相談してみればいいと教えた。

サガワの苦しい事情を聞いた日本共産党千葉県流山市議の徳増きよ子（58）は、すぐさまサガワとともに市役所に行き生活保護を申請した。44 歳のときに 3 回も生活保護を申請したが拒否された経験がある彼は半信半疑だった。しかし、すぐに毎月 7 万円の生活保護を支給されることになった彼は、「変な人々が集まる集団」と思っていた共産党に対するイメージをすっかり変えた。

先月 26 日、共産党千葉県流山市東部支部の日曜の集まりで、「ハンギョレ」と会ったサガワは「社会の底辺の弱者を助けるために共産党に入った。入ってみたら、みんなとても親切で、知らなかったことをいろいろ教えてくれた」とほほ笑んだ。

恋人はいたが、決まった収入がなく結婚もできず、長い不安定な生活のせいで、軽いうつ病までわずらった彼は、この日の会議のあいだじゆう生き生きとして、ときおり冗談も言うほど元気だった。

この日の会議には、宗教団体・創価学会を母体とする連立与党・公明党の党員だった 60 歳代の女性、70 歳に入党した一人暮らしの老人など、他の新入党者も出席した。

55 歳のウスミ

解雇され党の助力で就職

「非正規職の労働条件変えよう」

共産党に入党し覚悟決める

資本主義体制が高度に発達した世界第2位の経済大国・日本で、ここ1-2年のあいだに、サガワのように共産党の門をたたく人が増えている。2007年9月以降、毎月約1千人ずつ新入党員があり、1万8千人が新たに入党した。党员増加の速度が以前の2倍になった。とくに20歳代から30歳代前半の若い入会者が、以前は10%程度だったが今は20-30%を占めるほど大きく増えたという。

志位和夫共産党委員長が昨年、国会質疑で派遣労働者の手当たり次第の解雇を糾弾する動画を見たり、インターネットを通じて党綱領を見て、自発的に入党するかつてない例も増えている。昨年11月だけで52人の若者が、こうして入党した。若い共産党員の増加の背景には、終身職場を誇ってきた日本社会が、いつの間にか「雇用不安と隠れた貧困大国」に転落した現実がある。

共産党員作家の小林多喜二が70年前に発表したプロレタリア小説「蟹工船」が昨年、50万部以上売れる大ヒットを記録したのも、共産党ブームに火をつけた。非正規労働者にとっては、70年前の小説の過酷な労働環境が現代日本の自分の話のように感じられたからだ。

2002年に自民党政権が労働者派遣法を改定し、製造業にまで派遣職を許容するなど、新自由主義式の構造改革を断行した結果、非正規職が30%に増え、主要国のなかで最も高い数字を記録した。

若者の2人に1人は非正規職を転々としている。「日本版88万ウォン世代」である非正規職の量産は、貧困の拡散という悪循環を生んだ。同じ仕事をして、正規職の給与の50-60%しかもらえない非正規労働者が、年間収入200万円以下で日本の1千万人の「ワーキング・プア」の大多数を占めている。

昨年後半から押し寄せた世界金融危機と景気不況は、これら非正規労働者にとって、泣き面に蜂だった。トヨタなど日本の大企業製造業が、過去5-6年間の好況時に、内部留保を数兆円から12兆円へと2倍近く増やしておきながら、不況を理由に待ってましたとばかりに派遣社員など非正規職を手当たり次第に解雇し始めたのだ。

これらの大部分は雇用保険にも入れず、失業と同時に貧困層に転落した。解雇とともに会社の寮から追い出され、路頭に迷うことも多い。今年6月まで、非正規職の解雇の嵐にさらされた20万人から40万人が解雇されたという統計もある。

弱まったセーフティーネットから漏れた彼らにとって、共産党は現代の「駆け込み寺」だった。

自動車部品工場で自給1千円の派遣労働に就き、昨年1月に解雇されたウスイトコミ（55、仮名）は、2カ月分の生活費しかない状態だった。解雇のあと家に閉じこもって暮らしていた彼は今年1月、社長が共産党員で職員大多数も共産党員の病院清掃会社に就職した。これがきっかけで彼は、非正規職の労働条件を変えなければならないという覚悟で3月に共産党に入党した。

1922年の創立後、長く存続してきたが、党员40万人の大多数が50-70最大の中高年齢層だった日本共産党としては、最近の「若い血」の輸血で新たな活路を開拓したことに鼓舞されていることを隠せない。

22歳のアサノ

自動車部品工場を追われ
党に相談、解雇撤回闘争

「私のような弱者の味方だから入党」

アサノキクコ（22、仮名、女性）も、共産党が最近得た「若い血」の一人だ。高校卒業後、4 年近く働いた自動車精密部品工場から一方的に解雇された。1 月に共産党が主催した街頭労働相談で知ったアベマコト東京都議団事務局員の協力で会社を相手に解雇撤回闘争をしている。

他の職場に就職するのが難しい不況のなかで、13 万円という話にならない少額の退職金では、暮らしていけない状況だ。彼女は 2 月、「共産党は私のような社会的弱者をちゃんと応援してくれる」と感じて入党した。「私の話を真剣に聞いてくれたこと」が、彼女の心を動かした。はじめは政治に関心もなく、選挙のときは投票所で適当に候補者の名前を書いていた彼女は入党後、「わたしたち労働者と社会的弱者を何とかして助けたい」と様変わりした。

先月 29 日、東京新宿で日本共産党と系列青年組織「民主青年同盟（民青）」が共同主催した「街頭労働生活相談」キャンペーンは、社会的弱者との接点を拡大しようとする共産党の典型的な活動だ。

昨年 11 月に建築会社を追われ公園でホームレスとなった 55 歳の男性はこの日に相談に来て、共産党都議の助力で翌日、生活保護を申請した。

19 歳で結婚し、22 歳のときに離婚、二人の子どもを持つシングルマザーのスモノヨウコ（41）にとって、日本共産党は「苦しい人をいちばん考える政党」だ。「国家の政党補助金や、企業の政治献金もいっさい受け取らず、党費で運営するきれいな政党」だと考え、最近入党した。

日本共産党は、地域組織強化に力点を置き草の根政党のイメージを強化したことも党勢拡大につながったと自ら評価している。日本共産党は 2007 年 7 月の参院選で、民主党の圧勝に押され、議席数を 9 から 7 に減らしたことに衝撃を受け、地域密着活動に総力をあげてきた。全国 2 万 2 千以上の支部と 3 千人以上の地方議員が、地域住民が肌で感じる問題を提起し、解決しようと努力する姿を見せ、共産党に対する拒否感を減らしている。

この結果、今年 4 月の地方選挙で日本共産党は議席を 9 つ増やし、2007 年の参院選に比べて得票数も 50% 近く増やす躍進となって表れた。

植木俊雄共産党広報部長は「共産主義を目標とするといっても、いっきょに共産主義に行くのではなく、ルールのある資本主義、つまりルールある経済社会を実現しようというのがわたしたちの目標」だとして、「これが国民が共産党に安心感を持ち、共感を広げる大きな要因」だと語った。

日本共産党は 2004 年 1 月、第 23 回党大会で党綱領を大幅に改正し、革命政府樹立目標を放棄し、民主連合政府を通じた議会主義路線を明確にした。共産主義革命や一党独裁が連想されがちな共産党のイメージから脱皮し、西欧の社会民主主義路線に近いとの評価を受けている。かつて「民主集中制」の名で、各支部に現場の実情を無視した上意下達式の支持を下したこともあったが、いまは各地域の決定権をかなり認めているという。

ただ、共産党の党員増加が国会議員選挙での躍進につながるかは未知数だ。日本共産党は今年 9 月以前に行われる衆院選で 650 万票以上を得て、9 議席の議席を大きく増やすことを目標にしている。しかし現在、共産党の支持率は 4-5%にとどまっている。

ソ連崩壊など社会主義体制の没落後も、日本国民の共産党に対する距離感あるいは拒否感はかなり強

い。全盛期の 1979 年に衆参合わせて 40 議席を確保していたころに比べれば、現在の衆参 16 議席は見劣りがする。政権交代の風が強くなれば、次の衆院選で自民党対民主党の構図が強まり、浮動票が民主党に流れるかもしれない。地方選挙より国政選挙で共産党の得票力が落ちる点も悩みの種だ。地域の党関係者は「私たちの地域では、地方選挙では有権者が共産党という政党名をあまり気にせずに投票するので、1 万票くらい出るが、総選挙ではやはり共産党という看板が気になるのか、票が少なく出る」と明かした。

植木広報部長は「共産党は一党独裁のイメージがあるから党名を変えようという人もいるのは事実」と言い、「しかしわたしたちは、共産主義の本質は一党独裁ではないと考える。資本主義体制だけでは克服できない問題を解決するために、共産党が多数派として他党とともに政府を構成しようとしている」と語った。

流山市 徳増議員

「弱者の避難所、共産党に相談を」

千葉県流山市の徳増きよ子市議（58、女性）は「日本共産党は老舗と同じで国民を裏切らない政党」と自負心を見せた。26 年間の共産党地域活動と、二回の国会議員選挙落選をへて、2 年前に市議に当選した彼女には、日本共産党の生命力が見て取れた。

・共産党市議としての役割は何だと考えるか。

「地域の要求や悩み、困っていることを聞く駆け込み寺のような存在だ」

・解雇された派遣労働者や社会的弱者が助けを求める例は多いのか。

「そう。希望退職を求められた 40 歳代の男性の相談を受け、やめずに労働組合に入ってたたくように言った。3 回も生活保護を拒否された人とともに市役所に行き、生活保護申請をして支給金を受けたこともある」

・「困ったことがあったら共産党に行け、という言葉があるというが。」

「議員に当選した直後の 2007 年夏、駅前で宣伝活動をしていたとき、一人の男性がふらついているので話しかけたら、『公園で何カ月も暮らしていて金がない。共産党に相談したい』と言う。どこで共産党のことを聞いたのかと尋ねると、『スーパーマーケットの守衛が、困っているなら共産党に行けばいいと言ったので来た』と言った。彼は公園を住所にして生活保護を申請し、アパートに入ることもできた。いまは職も得て生活保護も受けずに生活しているが、自分も人助けがしたいといって共産党に入党して活動している。困ったときに助けられて入党する人が多い」

- ・ 共産党ブームを感じるか。先月の地方選で共産党が躍進したが。

「流山東部地域の場合、最近 1 年間で 17 人が入党した。他の地域でも入党者が増えている。流山市議会
は 28 人中 4 人が共産党だ。十分な数ではないが、議案を発議できる。今年 4 月、介護保険料に関する条
例改正を提案し、保険料を引き下げた」

- ・ 個人的に共産党のどこが魅力的か。

「弱者に対して親切というか、庶民の党だというか、怖い印象はなかった。共産主義理念と綱領を最初
から最後まで理解して入党したわけではない。戦争に一貫して反対した政党だということを知って入党
した」

(了)